

## ワークショップ A 「HPLC による色素解析セミナー」に参加して 遠藤 光

日本藻類学会第43回大会の初日に当たる2019年3月15日に開催された「HPLCによる色素解析セミナー」に参加した。講師は京都大学の宮下英明先生。セミナーでは宮下先生の講義の後、HPLC (High Performance Liquid Chromatography) を使用して色素を解析する様子を目の前で見せて頂き、液体窒素を使用したサンプルの磨砕、メタノールによる色素抽出も体験させて頂いた。また、大学院生の加山基さんがアシスタントとして解析結果を出力してその解釈の仕方を教えてくださった。

宮下先生は本大会会長としての準備がお忙しいにも関わらず、5時間にわたり丁寧に優しく教えてくださったため、セミナーは始終和やかな雰囲気であった。参加者の一人は宮下先生とのディスカッションにより新たな研究の発想を得たようで、とても喜ばしかった。褐藻の光防御に関する研究を始めたばかりの私にとっては初めて知ることが多く、大変有意義な時間であった。最初は緊張していた私の帯同学生2名も、宮下先生と加山さんのフランクトークのお陰ですんなりなじ



み、難解なイメージのある「色素解析」のハードルが下がった模様。宮下先生が掲げた「HPLCをつかった色素分析なんて簡単!と感じて帰っていただく」という目的は十分に達せられたのではないだろうか。

(鹿児島大学)

## ワークショップ B 「琵琶湖博物館見学会」に参加して 横山亜紀子

滋賀県立琵琶湖博物館は、琵琶湖の成り立ちから、周辺に暮らす様々な時代の生き物や人間との関わりまでの“琵琶湖学”がギュッとつままった楽しい博物館でした。個々の学芸員の方をクローズアップした展示のほか、「おとなのディスカバリー」と題された展示室は、シックな色彩とデザインでまとめられ、知的好奇心を誘う空気感に満ちていました。同館は秀逸な淡水水族館でもあるのですが、愛くるしいカヤネズミや日本最長のミミズ (ハッタミミズ)をはじめ、琵琶湖を特徴づける生き物も間近で観察できました。そのほかにも琵琶湖の水温変化を体感できるような体験型の展示物が非常に多く、参加者全員が“琵琶湖”という巨大な生態系を、様々な角度から感じ取ることができたと思います。ちなみに藻類関連の展示はというと、プランクトンの巨大なオブジェのほか、バーカウンター形式の“Micro Bar”で、冷蔵庫のように置かれた培養庫から取り出された培養物やとれたての琵琶湖サンプルを、顕微鏡で観察し、写真をプリントしたり、プロジェクションマッピングでプランクトンと一緒に写真が撮れる工夫などもあったりと、琵琶湖にどっぷり浸かった感じになりました。最後になりましたが、当日は、学芸員の大家



泰介さんと根来健さんに、すべての展示室で見事な解説でご案内をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

(国立環境研究所)